



ふじ市の製紙

④

不景気の風にゆれる製紙工場

大正時代になると、手すきの和紙工場がだんだんなくなって、かわりに機械すきの和紙工場がふえていきました。

大正3年、第1次世界大戦が始まると、戦争のため洋紙やパルプの輸入ができなくなってしまいました。紙の量は少ないのに、紙を買いたい人は多ぜいですから、ねだんは天井しらずに上がり続けました。

こうなると、紙はどんどん売れて製紙工場は景気がよくなります。どこの工場も、夜おそくまで仕事をしたり、新しい機械にかえたりして、紙をたくさん作ることに一生懸命でした。

新しい工場もあちこちにできまし

た。大正4年から9年までの6年間に泉町や原田、宇東川を中心に市内に16社も生まれました。

ところが戦争がおわると、急に不景気になりました。えんとつの煙も一つずつ消えて、仕事を休んだり、つぶれてしまう工場がめだつようになりました。

円本（えんぽん）が発行されたのは、このころです。円本というのは一冊一円で買った本のことです。

円本の発行で、紙の使用量も少しふえました。製紙工場は、やっとひと息つくことができましたが、あいかわらず苦しいままで、昭和へと移っていったのです。

簡易保険作文コンクールで、吉原第一中学校二年生、木村早登美さんの作品が、東海郵政局長賞に選ばれました。
ふとしたことから簡易保険を知り、興味をいだいていたことを「汗は守りにも使いたい」という題で書いた作品です。

汗は守りにも使いたい
東海郵政局長賞



木村早登美

吉原第一中学校
二年

小中学校統計図表展

小中学校の統計図表展を、11月20日と21日、吉原市民会館で開きました。小学校から134点、中学校から82点の応募がありましたが、この中から95点を選んで展示しました。

入賞した作品は、どれも実際に自分が見たり、聞いたり、調べたりしてあって、グラフも、だれにもよく

わかる表わし方をしております。

■小学校の部

- ・市長賞 中山雄二（吉原小3年）
本町通り南側通った人しらべ

■中学校の部

- ・市長賞 植田久美子 秋山美広
（鷹岡中1年）
富士根駅の乗降客数



かりがね祭り

岩松小学校は、かりがね堤のすぐ近く。古郡孫太夫から子供の重政へそして、そのまた子供の重年のときやっと完成したかりがね堤。300年以上たった今でも、びくともせずまを水害から守ってくれます。

全校生徒で祝うかりがね祭りも、今年で3回目。祭りのたびにぼく達は、かりがね堤について勉強します

